

令和3年度第1回兵庫県入札監視委員会会議 議事概要

開催日及び場所	令和3年7月14日（水）兵庫県民会館 10F 福の間		
委員	泉水 文雄（神戸大学大学院法学研究科教授） 塚本 隆文（元兵庫県代表監査委員） 池田 千鶴（神戸大学大学院法学研究科教授） 松本 隆行（弁護士） 堀 智子（公認会計士）		
対象期間	令和2年12月1日から令和3年3月31日まで		
事務局報告			
議案1 入札及び契約手続の運用状況等に係る報告等について			
対象工事の件数	736件	対象期間中の指名停止件数	7件
対象工事の契約金額合計	56,506,468千円	対象期間中の資格制限件数	1件
対象工事の平均落札率	90.5%	対象工事：対象期間中に契約締結した契約予定金額250万円超の工事	
議案2 抽出した工事の入札及び契約手続に係る審議について			
抽出案件の総数		5件	
うち	一般競争入札	0件	
	公募型一般競争入札	1件	
	制限付き一般競争入札	2件	
	指名競争入札	1件	
	随意契約	1件	
委員からの質問・意見及びそれに対する回答	質問・意見	回答	
	別紙のとおり	別紙のとおり	
委員会による意見の具申又は勧告の内容	無し		

No.	質 問 ・ 意 見	回 答
1	<p>事務局報告 令和2年度第3回兵庫県入札監視委員会会議の議事概要について</p>	
2	<p>議題 議案1 入札及び契約手続の運用状況等に係る報告等について (令和2年12月1日から令和3年3月31日までの入札・契約状況)</p> <p>・制限付き一般競争入札において、くじ決定が何件かある。総合評価落札方式を採用した入札においても、くじ決定が多く発生している。応札価格や評価値が同じになることは、起こりやすいものか。</p>	<p>・価格競争入札において応札価格が同額であった場合や総合評価落札方式において評価値が同一で並んだ場合はくじ引きになる。同方式の施工能力評価型では、技術点を企業の過去実績から付けるため、一定の工事成績を有していれば満点近くになるほか、入札価格も公表情報から高精度の積算ができるため、ほぼ下限値で応札することができる。特に簡易な型式では、くじ決定が生じやすい状況にある。</p>
3	<p>議案2 抽出した工事の入札及び契約手続に係る審議について</p> <p>(1) 公募型一般競争入札 ア 県土整備部(公営住宅課(契約管理課))発注 県営西宮真砂高層住宅耐震等改修工事 ・参加者数の約半数が辞退した要因は何か。また、予定価格を上回り不落となった要因は何か。</p> <p>・総合評価落札方式であるが、2回の入札は不落で、不落随契となったが、どのように評価、落札者決定となったのか。</p> <p>(2) 制限付き一般競争入札 ア 阪神南県民センター(西宮土木事務所)発注 武庫川下流浄化センター汚水吐出槽耐震補強工事 ・辞退者が多数出た要因は何か。</p> <p>・2者が応札し、1者は最低制限価格を5.7万円下回り失格しているが、落札者とは数百万の差額がある。ランダム係数が上振れしたためでもあるが、公平性担保の係数が効率性を阻害していないか。</p>	<p>・狭い場所で特定の工法を要する工事であり、参加申請をしたが仕様書を見て辞退したものと考えている。また、入居者がいながらの工事となり、その調整が必要となることから、応札価格が高くなったものと考えている。</p> <p>・予定価格を下回った参加者だけ、技術審査を行い、評価値を算出する。今回は予定価格を下回ったのは1者であったが、技術審査会を開催し、内容を確認している。</p> <p>・下水処理場での工事で、ガスが発生するなど施工条件が厳しいほか、同時期で他に工事案件が何件もある中では見劣りして避けられたのではないかと考えている。</p> <p>・ランダム係数は、情報漏えいによる不正防止のため導入している。算定された最低制限価格を下回った場合は、差額が僅かであっても失格とすることは制度上やむを得ない。</p>

<p>イ 企業庁（北摂広域水道事務所）発注 西宮市第2供給点送水管布設工事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不落随契の見積合わせは何回行ったのか。また、浄水場施設や局舎の工事について、類似工事の予定や実績はないか。類似のものを複数まとめて発注することでスケールメリットを出せないか。</li> <li>・県営水道の供給先、利用率はどうか。阪神水道企業団もあり、経済合理性から考えると一緒の方が良い一方で、リスク管理面からは別々の方が良いと思われるが、発注機関としてどのように考えているのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見積合わせは4回行った。1つの工種としての類似施工はあるが、今回工事のような建築と設備を合わせたものはない。なお、本体の送水管配管工事は、平成30年度から全長13kmを4件に分けて施工しており、1件当たり約20億円の大規模工事である。</li> <li>・県水は、阪神6市1町（芦屋市除く）に供給している。利用率は、川西市、猪名川町が概ね5～6割と高く、自治体ごとに異なる。（統合は、）コスト面とリスク面で一長一短あり、企業庁でも課題と捉えている。</li> </ul>
<p>(3) 指名競争入札 ア 淡路県民局（洲本土木事務所）発注 三原川水系 成相川他 成相・北富士ダム 成相・北富士ダム他管理設備更新工事その2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指名15者のうち2者以外は辞退している要因は何か。更新工事その1とその2では、落札者が同一とのことだが、一括発注して価格を低減できなかったのか。機器単体費の見積提出は業者の言い値となるため、他機関の類似工事での価格を比べよう意見する。</li> <li>・指名選定について、工事価格が3.8億円であり、同種工事の施工実績は26者あったならば、競争性確保で15者に絞らなくても良かったのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存設備の更新であり、一部が残る中では新規事業者はリスク面から敬遠しがちである。昨年度その1と今年度その2で分割発注となったのは、予算確保の事情による。</li> <li>・県では工種、金額に応じた発注基準を設けており、5億円未満の電気通信工事では15者となる。管内地域で数が不足していれば他地域から足す。また、特別の事情があれば、発注機関が入札審査会で別に定めることはある。</li> </ul>
<p>(4) 随意契約 ア 中播磨県民センター（姫路土木事務所）発注 揖保川浄化センター B系グループコントロール盤他改築工事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電気通信分野は技術進展が早く、設備の耐用年数はどれくらいか。</li> <li>・部分的な改修、更新では既存業者となりがちで、全面刷新でないと新規事業者が参入せず、競争性を確保できない。全国他機関での類似事例の検索、近隣都市間の情報交換等は行っていないのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフサイクルコストを考慮、修繕計画を随時見直す、コンサルタントに調査委託して検討している。全面改築は15年、プログラムは10年で陳腐化する。</li> <li>・コンサル調査、予備設計の段階で、他都市事例を収集した上で決定している。県内7つの流域下水道では情報交換をしている。</li> </ul>
<p>その他：政府調達に関する苦情処理及び建設工事に係る再苦情処理について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の対象期間にはなかった旨、事務局から報告した。</li> </ul>	